

6

ベトナムの漫画文化 その過去と現在の概説

グエン・ホン・フック

はじめに

現在、ベトナムにおいて漫画と言えば、まず日本漫画を思い浮かべる人が多いが、ベトナム人による漫画もある。1970年代後半から1990年代初頭にかけて、ベトナムの漫画は盛んだったが、1992年以降、海賊版の形で持ち込まれてきた日本漫画に道を譲り、ベトナムの漫画は影に隠れてしまった。しかし、近年、日本漫画に限らない意味での「漫画」があらためて話題になりつつある。2013年に「ベトナム漫画」(Truyen tranh Viet Nam) という記事がベトナム語版ウィキペディアに掲載されたことがその象徴である。

本章では、ベトナムの漫画出版史に焦点を当てながら、「ベトナム漫画」を追究する。また、グエン・タン・フォン (Nguyen Thanh Phong) を代表に、近年出現してきた若い作家をも紹介する。

ベトナムにおける漫画観

ベトナム国内で漫画はいろいろな批判に遭っているが、それには、漫画という言葉がベトナム語でどういう意味なのかに関連している。「漫画」をベトナム語に訳すと、「truyen tranh (チュエン・チャン)」となり、日本

漫画だけでなく、アメリカン・コミックス（以下、アメコミ）や、フランスとベルギーのバンド・デシネ（BD）も同じく「truyen tranh」と称される。ところが、「truyen」が「物語」、「tranh」が「絵」を意味し、『ベトナム語オンライン辞典』¹によると、「truyen tranh」とは一般に子供向け絵入物語を指すとある。また、ベトナム語版ウィキペディア²においては、「truyen tranh」とは絵と文の組み合わせによる実話や虚構の物語であると定義されている。この二つの定義は「絵入物語」あるいは「視覚物語」³という点で共通しているように見えるが、しかし、近年「truyen tranh」は、コマ割りと吹き出しのある漫画を連想させる場合が多い。要するに「truyen tranh」には「絵入物語」と「漫画」といった二重の含意が存在するのである。前者は漫画、特に日本漫画に詳しくないベトナム人の常識を表しているのに対し、後者はベトナムの若者（11歳～25歳）の一般概念だと言える。

これまで漫画は子供向けの「絵入物語」と見なされてきたため、その社会的地位は高くない。長きにわたって中国から儒教の影響を強く受けたベトナムにおいて、「物語（truyen）」に教育的で道徳的価値を求める伝統も存在する。実際、1990年代までのベトナム漫画は主に歴史的な内容、あるいは説教的な色合いの強い物語が過半数を占め、画風も割合に単調であった。それを背景に「漫画が子供向けの教育的な絵入物語だ」という認識がベトナムの社会において存続していた。しかし、日本漫画は子供だけでなく大人をも読者層としている。それを知らないベトナム人が、日本漫画のセックスシーンやキスシーン、暴力描写に直面すると、有害物だという印象を受けてしまうことは想像しやすいだろう。

ベトナムでは、大人が漫画を敬遠していると言っても過言ではない。売り上げのよい日本漫画作品の読者や、その関連イベントの来場者の年齢

1 http://tratu.soha.vn/dict/vn_vn/Truy%E1%BB%87n_tranh（最終確認 2014 年 1 月 12 日）

2 http://vi.wikipedia.org/wiki/Truy%E1%BB%87n_tranh（最終確認 2014 年 1 月 12 日）

3 「視覚物語」というのは東京大学大学院総合文化研究科の潘郁紅（Yuhong Pan）が使用する総称である。「雑誌に載せた画像と文字で物語を語るすべての形式を総称するための言葉である。『少年倶楽部』で現れた視覚物語の種類は実に豊かである。時間の関係で挿絵小説の状況を、ここでは検討外に置くことにしても、「絵話」、「漫画」、「活動写真」、「絵小説」、「絵物語」、「写真小説」、「映画物語」などさまざまである」（潘郁紅 2007: 49）。

などからすると、漫画はベトナムで主に若者に支持されていると推測できる。これらの若者にとって「漫画」とはアメコミあるいはベトナム国産の漫画ではなく、日本漫画を指しているのである。「漫画 (MANGA)」という日本語の国際化は⁴ベトナムにも及んでいることは言うまでもないだろう。

子供向けのものという漫画観自体には現在でも大きな変化が起きていないが、最近、「絵入物語」あるいは「視覚物語」より日本式の「漫画」という意味合いが普及しつつあることは事実だ。とは言え、日本漫画が若者に愛好されてはいても、「国の精華」と見なされ続けている⁵文学ほどの地位を占めることはできない。それは以下で言及するベトナムの出版史とも密接に関係している。

ベトナムの近代出版史からみた漫画

ベトナムにおける近代的出版は、フランス植民地支配 (1887 年～ 1945 年) の時代に本格的に始まったと言える⁶。その一因として、ベトナム語をアルファベットで表記する方法である「クオック・グー (Quoc ngu)」⁷が雑誌に登場し始めたことが挙げられる。クオック・グーの普及と雑誌の発展を促進したフランスは、中国文化によるベトナムへの影響を取り除き、(フランス文化を中心とする) 西洋文明を定着させようとしていた。その一環で当時刊行された「欧化派」雑誌の代表的なものとしては、「自力文

4 小野耕世 (2010: 40)。

5 Huy Lieu Tran (1927: 26)。

6 この期間に、木版印刷が活版印刷へと置き換えられ始めた。また、それ以前の出版史に関する資料が少ないので、フランス植民地支配期をベトナムの近代出版史の出発点とみなす。

7 1651 年にフランス人宣教師アレクサンドル・ドゥ・ロード (Alexandre de Rhodes) が作成した『ベトナム語・ラテン語・ポルトガル語辞典』において、ベトナム語をアルファベットで表記したものに起源をもつ。ベトナム民主共和国が独立した 1945 年に、新政府はクオック・グーをベトナム語の公式な表記文字とすることを定めた。現在のベトナムでは漢字、漢文の使用は廃され、ベトナム語はもっぱらクオック・グーのみにより表記されている。

団 (Tu Luc Van Doan)」⁸ という文人団体の『風俗 (Phong hoa)』誌⁹ が挙げられる。この 8 頁からなる文芸誌は、サー・サー (Xa Xe) とリ・トエット (Ly Toet)¹⁰ といったキャラクターを誕生させ、彼らをめぐる風刺的文章と絵を通じて封建制度を打破したり、西洋化、特に個人主義を肯定したりすることに力を注いだ。こうして漫画のための場を用意していた『風俗』誌は¹¹ コマ漫画のみを掲載していたにもかかわらず (図 1)、当時のベトナム人に「漫画」という新しいメディアをもたらしたのである。

1954 年のジュネーヴ協定の調印によって第一次インドシナ戦争が終結し、ベトナムは北緯 17 度線を境界として南北に分断された。共産主義の道を歩む北ベトナムにおいては、国民に共産党の政策とマルクス・レーニン主義の思想を宣伝することを目的に、1952 年に国家印刷社が設立された。そしてそれまでの自由な創作活動の禁止とともに、植民地時代の延長線上で西洋文明の勉学を奨励していた知識人は再教育を受けさせられた。この状況下、漫画は一枚絵として、宣伝活動あるいは歴史教育の手段に利用されるようになった。

一方、資本主義に基づいた南ベトナムにおいて、アメリカ支援の下、ゴ・ディン・ジェム政権は市場経済への移行を成し遂げ、出版活動をあまり制限しなかったため、漫画も発展していった。雑誌に掲載され、あるいは単行本として出版された漫画は宣伝や教育だけでなく、娯楽の機能も果たすことができた。漫画家も増え、その代表がヴォ・フン・キエット (Vo Hung Kiet)¹² である。彼はそもそも切手を描くことを専門としていたが、

8 「自力文団」は 1930 年代から行われたフランス植民地政策に抵抗し、ベトナム社会の旧弊打破・新生活運動の推進の中から生まれた。フランス文学の影響を強く受け、平易・明確な文体を使用し、生活環境の中での人物の心理描写を重視した。

9 この雑誌は 1932 年から 1936 年まで創刊された。第 1 号 (1932 年 6 月 16 日) ~ 第 13 号 (1932 年 9 月 8 日) はファン・ヒュウ・ニン (Pham Huu Ninh) により刊行され、第 14 号 (1932 年 9 月 22 日) ~ 第 190 号 (1936 年 6 月 5 日) はニャット・リン (Nhat Linh) が編集した。

10 二人のキャラクターの性格は同じだが、姿が異なっている。太っているサー・サーは太鼓腹を持ち、禿げ頭で、南部人を代表しているのに対し、痩せているリ・トエットは髪をくしけずり、ひげがあり、北部人を代表している。このキャラクターたちは当時の生活についての風刺画に登場していた。

11 Huu Chi Do (2011: 64)。

12 ヴォ・フン・キエット (Vo Hung Kiet) は 1945 年にベトナム南部のヴィン・ロン (Vinh

子供の間では彼の漫画が人気を博していた（図2、3）。1970年代には、ベトナム漫画の他に、中国の連環画と、欧米のBDとアメコミもベトナムの市場に登場してくる。しかし、それらは正式な翻訳版ではなく、人物の名前と吹き出し内のセリフが修正され、編集担当の名前も表記されない海賊版であった。また本屋ではなく、街角のキオスクで販売されていた。

1972年から1975年まで続く反米軍抗争の間、当然ながら出版活動も制限されることになったが、南北統一後の1976年から、ベトナム政府は「バオカップ（Bao cap）」¹³という配給制度を導入した。この制度下では、全ての事業・活動は政府の補助金によって行われていた。それは出版業界にも当てはまり、新作の発行が不可能に近い状態が訪れてしまったのである。1986年末にバオカップ制度が廃止され、刷新を意味する「ドイモイ（Doi moi）」政策¹⁴が進められていく。それにより、市場経済や対外開放が促進され、出版活動も回復に向かっていった。完全に国の補助金に依存していた出版活動には、民間資本からの共同出資が認められるようになり、価格も自由化され、その結果、国営出版社だけでなく、様々な民営出版社も生まれた。そして、1987年以降、ベトナム漫画のための環境も変化してくる。例えば漫画の表現が、もはや単に物語に添えられた挿絵ではなく、アメコミのようにコマ割りや吹き出しの活用を特徴とするようになる。そして、ベトナム漫画ははじめて業界として確立し、国家機関さえも漫画制作を支援はじめる。『ベトナムのおとぎ話』（1987年）、『冒険物語』（1988年）、『トエットとセ（Toet va Xe）』（1991年）、『緑仙女（Co tien xanh）』（1991年）などを作画した1956年生まれのフン・ラン（Hung Lan）の漫画は、子供

Long) で生まれ、1968年にサイゴン美術高等学校を卒業したが、すでに1958年から『ツオイ・サン（Tuoi Xanh）』誌に漫画を掲載し、1964年にViVi（ウィウィ）というペンネームで『ツオイ・ホア（Tuoi hoa）』誌の表紙も描いた。

13 全国を統一させるために導入されたこの制度は、国民生活において食糧や生活物資の配給を管理していた。人々は手帳と切符を持って、それぞれ指定された配給場所で該当する品目を受取った。

14 ドイモイ政策は経済（価格の自由化、国際分業型産業構造、生産性の向上）をはじめとして、社会や思想において新方向への転換を目指すものであった。社会主義をやめて資本主義に変わるのではなく、これまで社会主義の名のもとで実行してきた政策の欠陥を反省し、「まず考え方を刷新」して、社会主義を志向する現実主義的で合理的な政策を効果的に実行することを目的としている。

に特に人気が高かった。しかし、主に子供の教育に役立つものとして公認されていた漫画は、最終的に漫画らしい漫画になり得ず、ベトナムの昔話と道徳的な物語を題材とする「絵入物語」に止まってしまったのである。

そこで 1992 年に、キムドン (Kim Dong) 社¹⁵ は『ドラえもん』の翻訳出版を始めた。ベトナムに紹介された最初の日本漫画であった『ドラえもん』はすぐに大ヒットを記録する。発行の一週間後には、4 巻からなるそのベトナム語版はすでに 4 万部を売り上げていた。この大成功でベトナムの他の出版社もますます日本漫画に目をつけるようになる。1995 年に武内直子の『美少女戦士セーラームーン』と鳥山明の『ドラゴンボール』がキムドン社から出版されると、ベトナムに日本漫画ブームが訪れる。思春期の読者の需要を満たし、しかも単価の安い日本漫画に、教育的な内容に重点を置いていたベトナム漫画は市場で競争できなくなった。しかし、文学的・美術的著作物の保護（つまり著作権）に関するベルヌ条約がベトナムで発効する 2004 年 10 月 26 日までは、大人気の日本漫画は主に海賊版の形で流行していたことも見逃してはいけない。

新しいベトナム漫画

現在、日本マンガの他に、韓国の漫画^{マンファ}及び中国語圏の漫画^{マンホア}がベトナムの漫画市場にあふれている¹⁶。漫画は子供向けの読み物として見なされ続けているため、ベトナム独自の漫画は誕生しにくい。外国の漫画の浸透を背景に、ベトナム人による漫画制作も増えつつある。2002 年に、ホーチミン市のファン・ティ (Phan Thi) 社によって刊行されたレ・リン (Le Linh) 作の『ベトナム神童 (Than dong Dat Viet)』はベトナム漫画に大きな変化をもたらした (図 4、5)。幼い頃、科挙試験に合格した主人公レ・ティ (Le Ti) が正義の味方になり、仲間と一緒に「悪」と戦うというベトナムの歴史や古典文学に基づいた物語である。ベトナムの歴史上の人物とベト

15 1957 年に設立されたホーチミン市青年団所属の出版社で、児童本を専門に出版している。「キムドン」とは第一次インドシナ戦争 (1946 年～1954 年) の少年英雄の名前で、それに由来している。

16 <http://www.lichisuvn.info/forum/showthread.php?t=9232&page=3> (最終確認 2014 年 1 月 12 日)

ナムの伝統的な文化が、主人公の日常生活と旅を通じて誇張的で笑いを誘う視覚表現により面白く再現されたことで、『ベトナム神童』は多くの読者を魅了した。毎月1巻ずつ発行され、今まで通算120巻を超える長編となっているこの漫画は、特に若者に愛好されている。それは日本漫画と類似しているためであるかもしれない。鳥山明『ドラゴンボール』を想起させるキャラクターの目と笑顔の線描だけでなく、コマ構成とオノマトペの多用も日本漫画らしい印象を与えるのである。

『ベトナム神童』後、同様に人気の高いベトナム漫画はなかったが、2011年以降、ベトナム人作家による漫画が明らかに増えてきている。代表的な作品として、例えば、Dimensional Art Studioの3D Art 株式会社¹⁷による『竜の地 (Dat Rong)』がある。日本漫画のスタイルで描かれ、ハノイ市を舞台とするこの若者の冒険物語は、2013年に日本外務省による第6回国際漫画賞の入賞作品にもなった。B.R.O.¹⁸によるベトナムの有名な文学作品のアダプテーションとしての「名作漫画」もベトナムの漫画市場において注目を集めている。『消灯 (Tat den)』、『嵐 (Giong to)』、『チ・フェオ (Chi Pheo)』、『アイボリー櫛 (Chiec luoc nga)』などは「名作漫画」として出版されているが、これらの作品は個人制作ではなく、共同制作によるものである。また、近年、グエン・タン・フォン (Nguyen Thanh Phong、1986年生まれ、略：フォン) が個人制作の漫画家として広く知られるようになりつつある。

フォンは芸術分野で活躍している家に生まれ、すでに子供の頃、ハノイ市の「Tam long vang (金の心)」基金が開催するコンテストで受賞している。小学校5年生から漫画を読み始め、その描線を模写していたという¹⁹。2004年からフォンの漫画は色々な雑誌に連載されるようになり、チャー (Tre) 社の『若者の漫画 (Truyen tranh tre)』誌での「竜神将の伝

17 ディン・ベット・フン (Dinh Viet Phuong)、ド・ニュ・チャン (Do Nhu Trang)、そしてレー・ラム・ビエン (Le Lam Vien) といった作家からなる。

18 B.R.O はベトナムの若い漫画家の3人組、ホアン・アン・チュアン (Hoang Anh Tuan)、ファン・キュー・オアン (Pham Kieu Oanh)、グエン・ニャット・グエン (Nguyen Nhat Nguyen) から構成され、2005年に設立された。

19 <http://vtc.vn/chan-dung-doi-thoi/nguyen-thanh-phong-an-ngu-ve-va-tuong-tuong-359807.html> (最終確認 2014年1月12日)

説 (Truyen thuyet Long Than Tuong)」や、ファン・ティ社の『ベトナム神童ファンクラブ』誌での「ニィとツン (Nhi va Tun)」などが代表作として挙げられる。2009 年にハノイ市美術大学を卒業した後、フォンはプロの漫画家として活動を開始し、『化膿した頭のある殺人 (Sat thu dau mung mu)』という絵本 (図 6) をもってようやく全国的に有名になった。

民営のニャー・ナム (Nha Nam) 社と国営の美術出版社 (NXB My Thu-at) との協力によって 2011 年 8 月、初版 5000 部²⁰で刊行されたこの絵本は、ベトナムの現代的な改造慣用句及び若者のスラングや口癖を絵で表現するものである。例えば、「一匹の馬が病気になれば、千匹の馬は草を食べない」という伝統的慣用句を「一匹の馬が病気になれば、千匹の馬はもっと草が食べられる」へと捉え直している (図 7)。他人の痛みを気にせず自己中心的に生きることを示唆しているこの改造された慣用句は、他人に対し思いやりを持ち、他人の痛みに同情することを尊ぶ伝統的慣用句の意味をくつがえす。また、不幸な恋愛関係を意味する「朝は愛しているが、夜は喧嘩してしまう」というベトナム語の格言も例として挙げられている (図 8)。

ところが、この内容が賛否両論を呼び起こしている。賛成派は、ベトナム語の辞書に記載されていない慣用句やスラングを集め、それらを面白く視覚化したこの絵本を高く評価している²¹。それに対して反対派は、このような俗語を普及させるのがベトナム語の正統な使用、特に若者の言葉遣いに悪い影響を及ぼしてしまい、そして伝統的道德に反する意味を持つ改造された慣用句が若者の考え方にも悪影響をもたらしてしまうと主張している²²。社会に波紋を広げてしまった賛否両論や言い争いを背景に、ベトナム出版局長は、2011 年 10 月に美術出版社に対して改善を要求する公文書を送付した。その結果、美術出版社は協力会社だったニャー・ナム社に、当初取り決めた条件に違反しているという理由で、『化膿した頭のある殺人』の刊行を停止し、すでに搬出した部を回収することを要求した。

20 http://www.nhandan.org.vn/mobile/_mobile_vanhua/_mobile_diendan/item/18830002.html (最終確認 2014 年 1 月 12 日)

21 <http://giaitri.vnexpress.net/tin-tuc/gioi-sao/trong-nuoc/tranh-ve-ngon-ngu-cai-bien-cua-gioi-tre-gay-tranh-cai-1915509.html> (最終確認 2014 年 1 月 12 日)

22 同上 (最終確認 2014 年 1 月 12 日)

美術出版社は本作の頁数を 32 頁と定め、「改造慣用句」というタイトルで刊行することを許可していたのに、ニャー・ナム社は「化膿した頭のある殺人」というタイトルに変更し、総頁数を 120 頁までに増やしていたのである²³。

ベトナムにおいては、社会に波紋を広げてしまった場合、本の刊行を停止させられることが珍しくない。政府は刊行許可を厳しくする代わりに、ひとたび問題が起これば本の刊行を停止し、搬出した部を回収することを実施する。そして、一度回収された本は、新聞などのマスメディアにおいて黙殺されてしまう。しかし、『化膿した頭のある殺人』は例外となった。刊行が停止された約半年後、つまり、2012 年 3 月 29 日に L'Espace（ハノイ市におけるフランス文化センター）で「グエン・タン・フォンの絵本『化膿した頭のある殺人』が明らかにした @ 時代 [インターネット時代] の若者言葉」というタイトルの座談会が開かれた²⁴。この座談会では、フォンの絵本をめぐる賛否両論双方の意見が明確になった。注目に値するのは、反対派には新聞記者や教育者だけでなく、若者もたくさんいたが、逆に、賛成派に若者だけでなく、大人、特に教育と研究の分野で活動している人もいたという事実である。例えば、バン・ニュ・クウン（Van Nhu Cuong）教授²⁵は改造慣用句及び格言に興味を示し、正統なベトナム語ではないが、伝統の現代化として評価すべきと述べた。そして、辞書学の専門家であるベトナム社会科学院直属の辞書学・百科書院という研究機関のファン・バン・ティン（Pham Van Tinh）准教授も、この絵本がベトナム語をもっと豊かにし、若者が言葉を新鮮にする傾向を認めるべきと賛成している。これらの発言は『化膿した頭のある殺人』の再評価に貢献するものであった。そして、2013 年 3 月にニャー・ナム社は『化膿した頭のある殺人』を『センザンコウのような満足（*Phe nhu con te te*）』という新しいタイトルであ

23 <http://tuoitre.vn/Tet-2014/Tet-moi-mien/462350/Thu-hoi-Sat-thu-dau-mung-mu%C2%A0-Xu-ly-theo-%E2%80%99Cdu-luan%E2%80%99D.html>（最終確認 2014 年 1 月 12 日）

24 <http://giaitri.vnexpress.net/tin-tuc/gioi-sao/trong-nuoc/sat-thu-dau-mung-mu-nguoi-gia-me-nguoi-tre-che-1918247.html>（最終確認 2014 年 1 月 12 日）

25 1937 年生まれのバン・ニュ・クウン（Van Nhu Cuong）は、数学博士で、ベトナム国家教育委員会の一員であり、高校の教科書と大学の幾何学の教科書を編集した教授である。

らためて刊行することになった（図9）。

一方、刊行停止になってしまった『化膿した頭のある殺人』は、刊行直後から海賊スキンの形でインターネット上で流通し始めていた。その際、フォンは「泥棒さまへ」というメッセージを自分のブログに発表し、抗議している²⁶。つまり、海賊スキンの存在が、単行本の購入を減少させることによって、そもそも報酬の少ない作家の収入をさらに減少させ、ひいてはベトナム漫画の発展をも妨げることを指摘した。『センザンコウのような満足』が初版の『化膿した頭のある殺人』ほど売れなかったのは、読者が旧タイトルの方が印象深かったことに加え、海賊スキンの普及のせいもあると思われる。

『化膿した頭のある殺人』によって有名になったフォンは現在、主に本のための挿絵などを描いたり、短編漫画を制作したりしている。例えば、「幼い頃は豚、大きくなった頃は牛（Be lon, lon bo）」²⁷というベトナムの食料品問題を取り上げる彼の短編漫画は、2010年以來インターネットを通じて広がった代表作の一つである（図10）。また、フォンはカン・ユン（Khanh Duong）²⁸という友人と、「フォン・ユン漫画家グループ（Phong Duong Comic Artists Group）」を組み、ユン原作による漫画の作画を担当している。ユンの原作を基にしたのは、2011年にファン・ティ（Phan Thi）社から刊行された長編物語漫画『オレンジ（Orange）』である。

フォンの最初の単行本だった『オレンジ』は、高校2年生のラム（Lam）を主人公とするバスケットボール漫画である。ラムは「オレンジ」という天才バスケットボール選手の秘密を解明しようとしており、バスケットボールと同色のオレンジ色の腕章をつけている人々に対して変な態度や行動を繰り返している。しかし、ラム自身にも秘密がある。彼もバスケットボールの華麗なスキルを身につけていたが、表面ではこのスポーツに興味がない振りをしているのである。そのため、チャン（Trang）、ニィ（Nhi）

26 <http://phong210.wordpress.com/2011/10/21/g%E1%BB%ADi-b%E1%BA%A1n-an-c%E1%BA%AFp>（最終確認 2014 年 1 月 12 日）

27 英語版：<http://www.behance.net/gallery/Pig-when-small-Cow-when-big/4714463>

28 1986 年生まれこの作者はハノイ市師範大学を卒業し、現在、ドラマと漫画の原作者として知られている。

やツン (Tun) などの同級生は彼の秘密を明らかにしようとする。現在、『オレンジ』は第2巻までしか刊行されておらず、ラムと「オレンジ」という人物との関係はまだ明らかになっていない。

本作は、日本漫画との類似点が目立つ。まず気付くのがその題材である。フォン自身は井上雄彦の『SLAM DUNK』に影響されたことを認めている²⁹。また、コマ構成も日本漫画に近い。コマの大きさを変えたり、コマを重ねたり合わせたりするだけでなく、1頁当たりのコマ数を少なめにし、大コマの前に小さいコマを置くことなどによって緩急をつけるといった特徴からもそれが確認できる。さらに、一つの行動を多くのコマで表現することによって、キャラクターの体感時間を長く感じさせる工夫がされている(図11、12)。回想シーンの表現には、枠線外を黒く塗りつぶす黒べたの下地の他に、斜線でコマを区切る手法が採用されている(図13)。「コマの時間分節とページの一瞥性」³⁰は日本漫画に類似しているし、人物造形、特に表情の表現に加え、セリフのみを内包する小さなコマを配置する手法も日本漫画でよく用いられるものである。そして、「形喩」と「音喩」³¹という日本漫画特有の記号も『オレンジ』にみられる(図14)。さらに目立つのは、吹き出しに囲まれない文字を使いながら、独特の浮遊感をもたらす手法³²である。

このように日本漫画との類似点をたくさんもつ『オレンジ』は、一方でキャラクターの肉体的な描写において日本漫画よりも写実的であり、アメコミを想起させる。そして、『オレンジ』の物語は、ベトナムの若者の生活を舞台とし、ベトナムの町並みや日常的文化、例えば野菜の市あるいは家の中の先祖の祭壇を正確に描くことによってきわめて「ベトナム」的なイメージを発するのである(図15、16)。こうしてフォン・ユンが『オレンジ』という作品によってベトナム人による漫画が歩める道を示した結果、有望な若手作家と見なされるようになってきた。

29 <http://jpf.org.vn/2012/05/10/thanh-phong-neu-khong-ve-truyen-tranh-toi-se-chet> (最終確認 2014年1月12日)

30 夏目房之介 (2010: 43)

31 夏目房之介 (1997) などを参照。

32 夏目房之介 (2010: 49)

フォンはベトナム国内だけではなく、海外でもベトナムを代表する漫画家として評価されている。彼の短編作「Bicof Story」は、東南アジア系の漫画家を紹介し、2011年のアイズナー賞にもノミネートされたアンソロジー『LIQUID CITY』(Vol.2)に所収されている。また、フォンの短編漫画「虎になった人 (Nguoi hoa ho)」は2011年に中国の貴州省で開催された第5回アジア青年アニメ・コミック・コンテスト (Asian Youth Animation and Comics Contest) でベスト漫画を受賞した。最新の短編漫画「隣人 (Hang xom)」は2013年11月に L'Espace 主催の「ピース・オブ・ライフ」という漫画展に出品される予定であったが、性描写を含んでいたため、ベトナム文化情報観光省による展示許可が得られなかった(図17)³³。「隣人」³⁴は若い夫婦と一人暮らしの隣のお婆ちゃんとの間で起こるアクシデントについての物語である。若い夫婦の部屋のベランダからポタポタと水が落ちてくるのが、隣のお婆ちゃんに腹を立たせる衝突の原因になるというストーリーである。

この大人向けの短編漫画はベトナムの国家機関に認められないのに対し、政府の政策や思想を宣伝する漫画は認められる。その一例として2013年9月発行の、中国とベトナムの領土紛争においてベトナムの主権を主張する『ベトナム神童——主権確定』が挙げられる³⁵。この矛盾した状態は、ベトナムにおいて漫画文化がまだ市民権を得ていないことを自覚させると言えよう。

終わりに

本章は、ベトナムにおける漫画観と出版史といった側面から漫画文化の紹介を試みたが、それは、韓国や中国語圏におけるそれと比べて相変わらず未熟で不安定な状況にあることは、フォンのケースを手がかりに明ら

33 <http://infonet.vn/truyen-tranh-hang-xom-bi-cam-cuc-truong-ly-giai-nguyen-nhan-post104877.info> (最終確認 2014 年 1 月 12 日)

34 ベトナム語版：<http://phong210.wordpress.com/2013/11/14/hang-xom-a-comic-by-thanh-phong> (最終確認 2014 年 1 月 12 日)

35 <http://vietnamnews.vn/life-style/245480/comic-popularises-vn-sovereignty.html> (最終確認 2014 年 1 月 12 日) ファン・ティ出版社。

かになってきただろう。本章で示したように、ベトナム漫画の発展を妨げるのは、従来の漫画観、つまり漫画の社会的有用性を思想教育に限定する傾向の他に、漫画の海賊版に対する国家機関の抑止力不足という近年の新しい問題も一つの原因であると言える。この状況下、ベトナムにおいて若手作家が育ちにくいことは驚くべきではないだろう。

参考文献

- 一本順・大城房美・本浜秀彦共編『マンガは越境する！』世界思想社、2010年・岩下朋世「マンガの図像における「記号性」について」『マンガ研究 vol.12』、日本マンガ学会、2007年、54-61頁
- 小野耕世「増殖するマンガ——MANGA は世界にひろがっている」『マンガは越境する！』世界思想社、2010年、40-64頁
- グルンステン、ティエリ『マンガのシステム——コマはなぜ物語になるのか』野田謙介訳、青土社、2009年
- 関口末夫・トランヴァントゥ共編『現代ベトナム経済——刷新（ドイモイ）と経済建設』、勁草書房、1992年
- 夏目房之介『マンガはなぜ面白いのか——その表現と文法』日本放送出版協会、1997年
- 「絵・言葉・コマ——マンガとBD、コミックスの共通性と差異について」ベルント、ジャクリーヌ編『世界のコミックスとコミックスの世界——グローバルなマンガ研究の可能性を開くために（Comics Worlds and the World of Comics: Towards Scholarship on a Global Scale）』京都精華大学国際マンガ研究センター、2010年、23-36頁
- ベルント、ジャクリーヌ編『世界のコミックスとコミックスの世界——グ

- ローバルなマンガ研究の可能性を開くために (Comics Worlds and the World of Comics: Towards Scholarship on a Global Scale)』京都精華大学国際マンガ研究センター、2010 年
- 潘郁紅「日本大衆児童文学雑誌における視覚物語の様相 『少年倶楽部』(改『少年クラブ』)を中心に」『マンガ研究 vol.10』、2007 年、48-54 頁
- 吉川学洋「中国における海賊版日本マンガについての考察」『マンガ研究 vol.2』2002 年、131-136 頁
- 古田元夫『ベトナムの世界史 —— 中華世界から東南アジア世界へ』東京大学出版会、1995 年
- Do, Huu Chi “Comic Art in Vietnam: A Brief History,” *International Journal of Comic Art* 13.1 (Spring 2011): pp. 62-86.
- Do, Mimi H. *The Search for Modernity: Literature and Vietnamese Nationalism, 1900-1939* (M.A. Thesis), University of Hawai'i, 2002.
- Marr, David G. *Vietnamese Tradition on Trial, 1920-1945*, University of California Press, 1984.
- McHale, Shawn Frederick. *Print and Power: Confucianism, Communism, and Buddhism in the Making of Modern Vietnam* (Southeast Asia: Politics, Meaning, and Memory), University of Hawaii Press, 2004.
- Tran, Huy Lieu. *Mot bau tam su* (A gourdful of confidences), Cuong Hoc Thu Xa Press, 1927.
- 参考ウェブサイト (最終確認 2014 年 1 月 12 日)
- “Comic popularises VN sovereignty”, Viet Nam News : <http://vietnamnews.vn/life-style/245480/comic-popularises-vn-sovereignty.html>
- Ha Trang、「隣人の展示禁止、美術局長の原因の説明 (Truyen tranh Hang xom bi cam, Cuc truong ly giai nguyen nhan)」、ベトナム情報通信省のインフォネット : <http://infonet.vn/truyen-tranh-hang-xom-bi-cam-cuc-truong-ly-giai-nguyen-nhan-post104877.info>
- Hoang Anh、「『化膿した頭のある殺人』：お年寄りが賛成、若者が反対 (“Sat thu dau mung mu: Nguoi gia me, nguoi tre che)」、VN エクスプレス (電子版) : <http://giaitri.vnexpress.net/tin-tuc/gioi-sao/trong-nuoc/sat-thu-dau-mung-mu-nguoi-gia-me-nguoi-tre-che-1918247.html>
- Minh Nhat、「改造慣用語：回収されると、早く広がっている (Thanh ngu sanh dieu: Thu hoi, cang lan nhan)」、ベトナム共産党機関紙ニャンザン (電子版) : http://www.nhandan.org.vn/mobile/_mobile_vanhua/_mobile_diendan/item/18830002.html
- Thanh Huong、「グエン・タン・フォン：食事・睡眠・作画・想像 (Nguyen

Thanh Phong: An – Ngu - Ve va tuong tuong)」、ベトナム情報通信省の VTC ケーブルテレビ会社 <http://vtc.vn/chan-dung-doi-thoi/nguyen-thanh-phong-an-ngu-ve-va-tuong-tuong-359807.html>

Thanh Phong、「泥棒さまへ (Gui ban an cap)」、フォンの個人ホームページ：
<http://phong210.wordpress.com/2011/10/21/g%E1%BB%ADi-b%E1%BA%A1n-an-c%E1%BA%AFp>

Thoai Ha、「改造慣用句の絵画は賛否両論を呼び起こしている (Tranh ve “ngon ngu cai bien” cua gioi tre gay tranh cai)」、VN エクスプレス (電子版)：<http://gi-aitri.vnexpress.net/tin-tuc/gioi-sao/trong-nuoc/tranh-ve-ngon-ngu-cai-bien-cua-gioi-tre-gay-tranh-cai-1915509.html>

フォンのインタビュー、「タン・フォン——漫画を描かないと死んでしまう (Thanh Phong – “Neu khong ve truyen tranh, toi se chet”)」、ジャパンファウンデーション：
<http://jpf.org.vn/2012/05/10/thanh-phong-neu-khong-ve-truyen-tranh-toi-se-chet>

ベトナム語オンライン辞典：http://tratu.soha.vn/dict/vn_vn/Truy%E1%BB%87n_tranh

ベトナム語版ウィキペディア：http://vi.wikipedia.org/wiki/Truy%E1%BB%87n_tranh

『『化膿した頭のある殺人』の回収：社会批評の通りに解決？ (Thu hoi Sat Thu dau mung mu: Xu ly theo “du luan”?)』、ホーチミン共産青年団機関紙トイチエ (電子版)：<http://tuoitre.vn/Tet-2014/Tet-moi-mien/462350/Thu-hoi-Sat-thu-dau-mung-mu%C2%A0-Xu-ly-theo-%E2%80%9Cdu-luan%E2%80%9D.html>

新江拜、「ベトナムにおけるストーリー漫画の作成の現状、そして日本の役割 (Thuc trang sang tac “truyen tranh co cot truyen” o Viet Nam va vai tro cua Nhat Ban)」、ベトナム歴史フォーラム：

<http://www.lichsvn.info/forum/showthread.php?t=9232&page=3>

フォンの作品一覧

“Truyen thuyet Long Than Tuong (The Legend of Long Than Tuong)”, *Truyen tranh tre*, Tre Publishing House, 2004.

“Nhi va Tun (Nhi and Tun)”, *Than dong Dat Viet Fanclub*, Phan Thi Company, 2004.

“Cau be va may bay giay (The Boy and the Paper Plane)”, *Liquid City 1*, Image Comics, 2008, p. 7.

Bon anh tai - Sang tau doi no (Four Incredible Guys - A Journey to China to Recover a Debt), Nha Nam Company, 2009.

“Be lon, lon bo (Pig when small - Cow when big)”, 2010, p. 12.

“Bicof Story,” in Liew, Sonny, and Lim Cheng Tju, eds, *Liquid City 2*, Image Comics, 2010.

Orange, Phan Thi Company, 2011.
“Nguoi hoa ho (Man-Turned-Tiger)”, 2011.
Sat thu dau mung mu (The killer with a head full of suppurating sores), Nha Nam Company and the Fine Arts Publishing House, 2011.
Phe nhu con te te (Pangolin in a spin), Nha Nam Company, 2013.
“Hang xom (The neighbor)”, 2013.

グエン・ホン・フック (Nguyen Hong PHUC) 1987 年、ベトナム生まれ / ベトナム国家大学ホーチミン市人文社会科学大学日本学科卒業 / 京都精華大学大学院マンガ研究科博士前期課程在学 / マンガ専攻 (理論系) / マンガ研究、マンガと文学の関係。



図1 ブッ・ソン (But Son) (ペンネーム) によるリ・トエット (Ly Toet) とサー・セー (Xa Xe)

(<http://www.diendan.org/phe-binh-nghien-cuu/111i-tim-goc-gac-ly-toet-xa-xe> より)

図1の翻訳 (左から右へ)

サー・セー : トエットさん、僕たちは1ス (1ス = 0.01 ドン) しか持っていないよ。
どうやって僕たちの体重を測るの?

リ・トエット : こうやったらいいよ。まとめて2人の体重を測った後、
その体重の合計を半分に分けたらいいよ。



図2 ヴォ・フン・キエットによるツオイ・ホア (Tuoi hoa) 雑誌の表紙

(<http://tuoihoa.hatnang.com/node/86> より)



図3 ヴォ・フン・キエットによる漫画

(<http://truyentranhviet.vn/tin-tuc/1291/ViVi-Vo-Hung-Kiet-%E2%80%93-Hoa-si-cua-tuoi-tho.html> より)

図3の翻訳(絵画にある序数による)

1: 国の英雄キム・ドン (Kim Dong)

原作: ティ・ゴック (Thy Ngoc)

作画: フン・キエット (Hung Kiet)

2: ベトナム北部のカオ・バン (Cao Bang) 省には、敵の戦車と戦うのが得意なダム・バン・ドック (Dam Van Duc) という人がいた。

3: 彼は14歳である。敵が逃げたのを見ると、すぐ戦車に乗った。

4: 彼はナイフで戦車を開けようとしたとたん、敵は戦車を動かしたので、落ちてしまった。

5: 落ちて痛かったが、負傷した味方の兵士を見た。

6: 負傷した味方の兵士は持っている銃を指しながら、彼に草の上に横になってと言った。



図4 レ・リン『ベトナム神童』2008年、第100巻、62-63頁

図4の翻訳（左から右へ）

- 1: はははへ、大したことないよ。
- 2: 師母が本当にやりたいことは何かな？
- 3: 臭すぎる！ こっちに来るな！
- 4: 坊ちゃん！ お願い！
- 5: 少しお金ちょうだい！
- 6: 金なんかないよ。
- 7: 分かった！ 絵を描いて差し上げましょう！
- 8: でも、先にお金を払ってください！
- 9: 金だって大したことない！
- 10: さっさと出て行け！
- 11: ああああ～
- 12: ケチ～
- 13: はあ？



図5 レ・リン『ベトナム神童』2008年、第100巻、66頁

図5の翻訳(左から右へ)

- 1: ついに捕まえた!
- 2: あああ〜
- 3: 官僚に会いに行こう!
- 4: 皆! 大丈夫?
- 5: 姉ちゃん! 痛い〜!
- 6: こんなことで泣くなんて...
- 7: 男のくせに泣き虫だ!
- 8: はあ?



図6 タン・フォン『化膿した頭のある殺人』2011年表紙

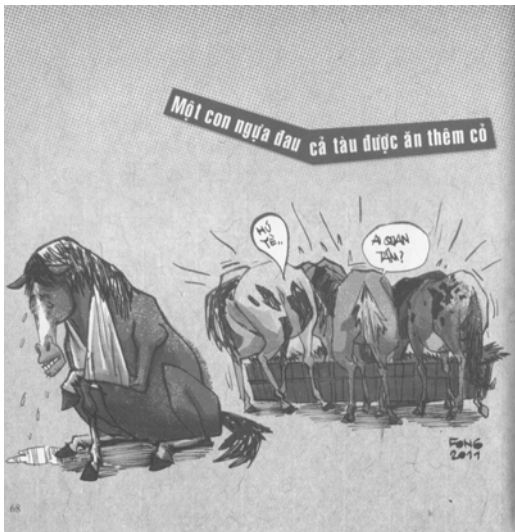


図7 タン・フォン『化膿した頭のある殺人』2011年、68頁

図7の翻訳

- 1: 一匹の馬が病気になれば、千匹の馬はもっと草が食べられる。
- 2: やほ～！
- 3: 構わない！



図8 タン・フォン『化膿した頭のある殺人』2011年、118頁

図8の翻訳（左から右へ）

- 1: 朝は愛している。
- 2: 夜は喧嘩してしまう。



図 11 フォン・ユン『オレンジ』
2011 年、第 1 巻、30 頁

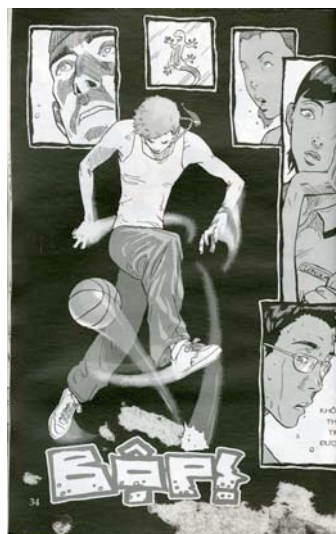


図 12 フォン・ユン『オレンジ』
2011 年、第 1 巻、34 頁

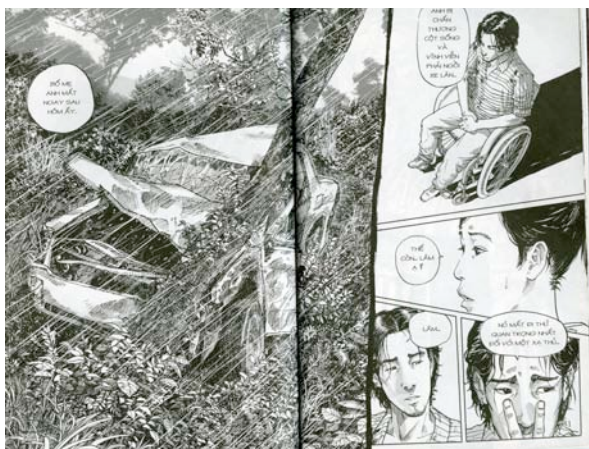


図 13 フォン・ユン『オレンジ』2011 年、1 巻、130-131 頁

図 13 の翻訳（左から右へ）

- 1: 翌日、僕の親が亡くなってしまった。
- 2: 僕は腰を痛めてしまい、永遠に歩けない。
- 3: ラムさんはどうでしたか？
- 4: ラム ...
- 5: 名選手にとって一番大切なものを失ってしまった ...



図 14 フォン・ユン『オレンジ』2011 年、1 巻、109 頁

図 14 の翻訳 (左から右へ)

- 1: チャンちゃん！ 君のかばんの中に Linkin Park World Tour の CD を忘れた。明日、学校に持って来てね。
- 2: 何？ Linkin Park？ チャンちゃんのかばんの中に？
- 3: あれだ！
- 4: ワンちゃん！ かまないでね！
- 5: 俺をワンちゃんと呼ぶな！
- 6: 囁む音、ああ～



図 15 ベトナムの市場
フォン・ユン『オレンジ』2011年、1巻、88~89頁



図 16 ベトナム風の先祖の祭壇
フォン・ユン『オレンジ』2011年、1巻、119頁

